

自分で何でもできると思ってきました。何とか頭を使い体を使っていったら、何とかできると思ってきました。何ともできない状況に身を置いたとき、はじめて自分の愚かさを知ることができました。私はすべて上からものを見て自分がやっている、私がという思いがとても強かったのです。この学びもそうでした。自分がやっていく、自分でできる、そのための方法を教えてくださいという思いで学んできました。そして自己供養を全く飛ばしてきた学び方でした。

田池留吉を見くびってきました。意識の世界を簡単に捉えてきました。自分の闇を甘く甘く捉えてきました。単に人を見下げているとか、己一番とか、そんな次元のものではなかったのです。「我は神なり。全世界を牛耳っていく。私は田池留吉を殺すために生まれてきた」はっきりとはっきりと自分の口からその闇の思いを出させてもらったときに、初めて自分がどれだけの闇をこの心に抱えているかを確認させていただきました。現象では、すさまじいエネルギー - を出している私ですが、まだまだ自分はその人ほどではないと思ってきました。認めたくはなかったけれど、認めざるを得ないすごいエネルギー - を持っています。認められなかったから、反省にもつないでいくことができないと思いました。田池留吉に向けなさいと言われたとき、私は「田池留吉に向けられないんです。田池留吉を思えないんです。私は田池留吉を殺すために、今こうして目の前に肉を持って生まれてきたのに、こんな私を許してくれるのですか」そう語っていました。田池留吉、田池留吉の波動はただただやさしく包み込む思いでした。「あなたはすでに許されているのですよ」と言われました。心を閉ざしてきました。心を開けていくだけでよかったんです。

私は自分の闇が怖かった、自分の闇に押しつぶされそうだから、だから

肉は心に向けることをしてきませんでした。だけど闇も自分なら、田池留吉も自分の中にある温もりでした。すべて自作自演の世界が意識の世界でした。私の心の中で闇は解放されるのを待っています。ひとつ出ればまた次と闇は尽きることなくこの心から出てきます。田池留吉を殺すために生まれてきた闇が、田池留吉に出会いたくて出会いたくて生まれてきてくれたことを心で感じさせてもらって嬉しいです。闇とともに田池留吉に心に向けていくことを学んでいきます。ありがとうございました。

私は己が偉かった。己一番、己一番、すべてのものを見下げてきました。お父さん、お母さん、ありがとう。私は一番愚か者でございました。私は愛されて愛されて許されている幸せな存在でした。今世こうやって田池留吉と出会えること幸せでございます。3億6千年の長き転生でございました。私はこれから心の修正をしてそして来世に必ずつないでいきます。ありがとうございました。